

**お知らせ** 寄居子ども博士が2人誕生！ 第10回寄居子ども博士検定

10月20日に「第10回寄居子ども博士検定」が行われ、町内の小学4～6年生、35人が受検しました。今回の検定では、坂本愛佳さん、坂本純菜さんの2人が、姉妹で子ども博士認定となりました。また、3位の町田凜奈さん、奥雪乃さんも表彰されました。2年連続博士認定の坂本愛佳さんは今回の認定について「昨年よりも難しかったですが、博士になれてうれしいです」と話してくれました。また、妹の純菜さんは「お姉ちゃんと一緒に博士になれてよかったです」と話してくれました。 <敬称略>



坂本愛佳

坂本純菜



町田凜奈

奥雪乃

第10回子ども博士検定入賞者		
氏名	得点	結果
坂本愛佳 (寄居小5年)	94	博士
坂本純菜 (寄居小4年)	94	博士
町田凜奈 (桜沢小6年)	88	3位
奥雪乃 (折原小5年)	88	3位

※90点以上で子ども博士認定

	ポスターの部	作文の部
埼玉県知事賞	高橋 ころ (寄居小6年)	松本 知恵 (寄居小6年)
寄居警察署長賞	柴崎 朱理 (桜沢小6年)	大野 遥貴 (男小6年)
寄居町長賞	鳥塚 結芽 (鉢形小5年)	内田 早紀 (寄居小6年)
寄居町議会議長賞	桜井 琉玖 (男小5年)	瀬戸 翔太 (寄居小6年)
寄居町教育委員会教育長賞	藤巻 拓也 (折原小4年)	金子 理緒 (男小4年)
寄居町交通安全母の会会長賞	高橋 遥香 (用土小6年)	意向により掲載していません
入選	藤田 悠陽 (寄居小6年)	小島 和記 (桜沢小6年)
	後藤穂乃華 (寄居小6年)	小川 美春 (用土小6年)
	正田 花 (鉢形小6年)	今村 怜杏 (折原小6年)
	白木 初音 (男小6年)	秋山 水綺 (男小6年)
	高山 静 (折原小6年)	新井 碧心 (男小6年)
	卜部 心寧 (用土小5年)	小森 星奈 (男小5年)
	松本 乃愛 (用土小5年)	新井のの (男小5年)
	藤野 哉恩 (男小5年)	森田 啓斗 (鉢形小5年)
	瀧澤明香璃 (桜沢小5年)	奥 雪乃 (折原小5年)
	内藤 竜正 (鉢形小5年)	大戸 一輝 (寄居小5年)
	内田 夢佳 (桜沢小4年)	瀬戸 裕太 (寄居小4年)
	高橋 遼 (折原小4年)	山本 涼太 (寄居小4年)
	柏木 悠 (寄居小4年)	江原 志庵 (男小4年)
	根岸 恋杏 (鉢形小4年)	堀口 凌太 (男小4年)
小林 大翔 (鉢形小4年)	根岸 靖暁 (桜沢小4年)	

**第36回 寄居町交通安全ポスター・作文コンクール**

悲惨な事故をなくし、暮らしやすい社会を築くため、子どもたちが真剣に考えました。いずれの作品も、交通安全に対する願いが込められています。 <敬称略>



埼玉県知事賞

高橋 ころ (寄居小6年)

**お知らせ** 2人の方がシラコバト賞を受賞！



今井重男さん

荻原 昇さん

シラコバト賞は、日頃、身近なところで住みよい地域社会実現のために、積極的な実践活動を地道に続けている個人や団体に贈られる賞です。今年は、町から今井重男さん(上組)と荻原昇さん(三品)が受賞されました。

今井さんは、毎日児童の登下校に付き添って見守りや交通安全指導を行い、子どもたちも素直にあいさつを交わせるようになるなど、豊かな心の育成に貢献しています。荻原さんは、長年にわたり郷土文化の企画展示を行っているほか、地域伝統の三品石尊太鼓の保存・伝承のため後継の指導に当たり、郷土文化の普及と発展に貢献しています。それぞれの活動が評価され、このたびの受賞となりました。

**お知らせ** 林実希さんが会長賞を受賞！



深谷市消防本部と深谷地区防火安全協会の主催で行われた第40回防火ポスターコンクールに、寄居町と深谷市の小学4～6年生から557点の作品が寄せられました。審査の結果、林実希さん(鉢形小6年)の作品が深谷地区防火安全協会会長賞に選ばれました。入選以上の53作品は、12月12日から26日まで、アリオ深谷3階Lフォルテ図書館前ロビーで展示されます。児童たちの力作をご覧ください。

「ドッカン！ドーン！」— いったい何の音だろう。お父さんはおどろいた。お父さんが仕事で取り引き中に、駐車場に駐めていたお父さんの車に、突然、道路から車があるのすごい勢いで突っこんできた。「ドッカン！ドーン！」の音は、そのための音だったのだ。私は、学校より帰ってきてから、今日の出来事を聞いて、おどろいて体が固まってしまったと同時に、お父さんの車がめっちゃめちゃになってしまった悲しみと、お父さんがけが一つもなく無事で、元気な姿にほっとして、涙がぼろりと三粒、私のほほを伝わった。結局、お父さんの車は廃車となってしまった。お父さんの車は人間ではないけれど、私にとっては、家族の一員である。どうして駐車してある車に向かって、車が突っこんだのだろう。「ドッカン！ドーン！」の「ドッカン！」は、信号無視した車が、反対車線を走っていた車に突突した音で、その弾みで「ドーン！」とお父さんの車に突っこんでしまった。車を運転していた人は、体調が悪かったのだろうか。また、急ぐ気持ちやあせり、考え事をしていたのだろうか。幸い、この事故による死者はいなかったと聞いたが、改めて、車は恐ろしい乗り物だと感じた。

事故をなくすために、自動運転、自動停止など、車づくりは進化を続けている。しかし、車には人間が乗り、運転もする。道路には、歩行者もいて、常に危険ととなり合わせと言っても過言ではない。私たち一人ひとりが悲しい思いをしないよう、自身はもちろん、互いに健康観察し合って、体調が悪い時や、寝不足の時は運転をしないで、休息を取り、どのような場面でも、交通ルールをしっかり守らなければ、決して事故はなくなるのだと思う。運転する人、歩く人、一人ひとりが、大切な命を持っている。その「命」を守るためにも、私たちは真剣に交通安全に関心を持つこと、また、乗り物や道路の危険箇所はないかくり返し点検して早急な修繕をし、だれにでもわかりやすく見やすい道路標識を設置したり、見通しの悪いところは草木を切り、障害物を移動することも重要だと考える。つまり、体調と環境を整えることが、交通安全につながり、私たちの心にゆとりが生まれ、だれにでも思いやりを持った交通ができるようになるのではないだろうか。

私は、四月から中学生となる。小学生の時よりは行動範囲も広がるだろう。普段交通安全に心がけて生活しているが、今段で以上に注意していきたい。そして、小学校卒業まであと七カ月、毎日の登下校の道に今改めて感謝の気持ちでいっぱいである。これは、登下校しやすいように整備してくださる方々や、地域のみなさんのおかげなのだ。ありがたい気持ちをおかげなからも笑顔で元気いっぱいにあいさつしたいと心から思った。



埼玉県知事賞

「私の願いは交通安全」  
松本 知恵 (寄居小6年)